

繁殖、休息地域の間、生態的リンクが妨害されることになるかもしれない。設計段階で、風力発電機の群れの間に広い回廊を設けるなどすると、こうした障害を軽減することができる。このようなことが許容可能な解決策であるかどうかを研究するために、数箇所のパイロット地点で建設後のモニタリングをすることが必要であろう。

④大多数の研究では、今のところ風車による鳥の衝突死はあまりないとしている。しかしこれは必ずしも衝突による鳥の致死率が有意でないということを示しているわけではない。特に重要鳥類地域を含む鳥の大群、渡り鳥、大型猛禽類、その他大型滑翔鳥類が生息しているところに、きちんと設計されていない大規模なウインド・ファームが建てられるのは問題である。大型で長寿の種類で、あまり繁殖率の低い鳥にとっては、わずかな死亡率の上昇でも、その数への影響は大きい。

⑤環境影響評価はプロジェクトが環境へ与える影響や、これらを防ぐ方法を明らかにする点で、重要なツールである。

1. すべての風力発電事業計画は、野生の鳥や環境全体に悪影響を及ぼさないかどうか、まずスクリーニングにかけられるべきである。その上で、悪影響を及ぼしそうなプロジェクトは、環境影響評価を行う。
2. 環境影響評価はプロジェクトの立案段階で、関係自治体、環境 NGO などと十分に話し合いながら行われるべきである。
3. 環境影響評価は、タービンだけでなく、ケーブル、高圧送電用鉄塔、アクセス道路を含めたすべてのインフラを対象とすべきである。
4. 環境影響評価には、鳥の数などを特定するため、最低でも 12 ヶ月のフィールド調査を含めるべきである。
5. 悪影響を最小限に抑えるための、異なる立地、異なるレイアウトやタービンの数など、さまざまな別のオプションも考慮されるべきである。

6. 開発前と後、適切なモニタリング調査が行われ、鳥やその生息地への影響が検証されるようにしなければならない。

⑥鳥の衝突死を最小限にするためには、ウインド・ファームの立地と設計が重要な要素である。さまざまな立地選択肢が評価され、適切に選択され、その上にウインド・ファームが適切に設計されれば、鳥や野生生物への悪影響は避けられる。

⑦しかし、いかなる再生可能エネルギー開発も、重要な鳥類地域を含め、自然保護地域と指定された地域あるいは将来指定される可能性のある地域に悪影響を及ぼしてはならない。予防原則として、そのような場所に風車を立てることは、避けるようにすべきである。

<勧告>

洋上風力開発で、きちんとした決定が行われるよう、海の保護地域を見極め、指定することが緊急に求められている。

ウインド・ファームの影響への理解を深めるために、各国政府と風力業者が、研究とモニタリングを行うべきであり、その結果は国際的な科学誌で発表されるべきである。

各国政府はその国で行われるすべての風力発電計画について、EU 議会で出された指令に基づき、戦略的環境影響評価(SEA)を行うべきである。

この SEA には、鳥の所在地を示す棲息図、生息地、飛行路、渡りルートを示し、風力発電計画がもたらす影響の評価を含め、適切な政策決定が導かれるようにする。

地域での風力開発計画を立てる上で、格別に注意を要する鳥の種類や問題を示し、風力発電の立地にふさわしくない地域を示すべきである。